04-6　日本の高齢者における入浴、転倒、誤嚥による事故死の最新動向：長野県との比較

石澤美代子、平田治美（松本大学人間健康学部健康栄養学科）
青木雄次（松本大学大学院健康科学研究科）

キーワード：不慮の事故死、高齢者、浴槽内溺死、平面転倒死、食物誤嚥死

要旨：厚生労働省から発表されている不慮の事故死の 2001 年から 2021 年の 5 年毎の変化について考察した。30 ～ 44 歳、45 ～ 64 歳、65 ～ 79 歳と 80 歳以上の年齢階層別死者数についてみると、浴槽内溺死、平面転倒死、食物誤嚥死は 65 歳以上の高齢者が大半を占め、平面転倒死では 80 歳以上の割合が大きくなっていた。10 万人当たりの頻度でみると、食物誤嚥死は減少しており、他の 2 死因では、80 歳以上の平面転倒死が 2021 年で増加していた。2021 年の公表データによると、全国に比べ長野県では、溺死及び溺水による事故死の割合が大きい傾向にあり、注目すべき点と思われた。

A. 目的

消費者庁は、高齢者の不慮の事故死を死因別に比較し、転倒・転落、誤嚥等の不慮の窒息、不慮の溺死及び溺水の死者数が、交通事故や自然災害による死者数より多く、増加傾向にあるとして、2019 年「みんなで防ごう高齢者の事故！」という注意喚起の情報発信を行っている[1)]。そこで、それら事故死の最近の動向の調査と長野県との比較を行った。

B. 方法

政府統計の総合窓口（e-Stat: https://www.e-stat.go.jp/）より、2001 年から 2021 年における 5 年毎の不慮の事故死のデータを得た。死因の主なものについて、ここでは交通事故死、平面転倒死、浴槽内溺死、食物誤嚥死と表現した。

C. 結果

図 1 に示すように、交通事故死の各年齢階層の人数と 10 万人当たりの頻度は、ともに減少していた。一方、浴槽内溺死、平面転倒死、食物誤嚥死は、65 歳以上が大半を占め、平面転倒死では 80 歳以上の割合が大きくなっていた。それら 3 死因の実人数は、全経過で増加傾向であった。10 万人当たりの頻度でみると、食物誤嚥死は減少しており、他の 2 死因では、80 歳以上の平面転倒死が 2021 年で増加していた。

長野県については、不慮の事故死の小項目のデータが公表されていないため、事故死の上位項目を全国と比較して表 1 に示した。全国では転倒転落死、長野県では溺死の割合が大きい傾向がみられ、65 歳以上で差がより大きかった。

D. 考察

高齢者の主な不慮の事故死の実人数は、2001 年から 2021 年において、交通事故死以外増加傾向であったが、人口高齢化の影響も示された。不慮の溺死及び溺水の主な死因となっている浴槽内溺死に関し、入浴中の熱中症から意識混濁による浴槽内溺水が主な原因であるとの報告があり[2)]、全国に比べ長野県で溺死者が多い傾向にあったことは注目すべき点と思われた。

E. 利益相反

利益相反なし。

F. 文献

1) 消費者庁. みんなで防ごう高齢者の事故！News Release 2019 年 12 月 18 日.
2) Suzuki M, Shimbo T, Ikaga T, Hori S. : Incidence and characteristics of bath-related accidents. Intern Med 58: 53-62, 2019.

表1. 不慮の事故死の国と長野県の比較（2021年）

不慮の事故の種類		総数	45～64歳		65～79歳		80歳以上	
			人数	比率%	人数	比率%	人数	比率%
総　　数	国	38355	3301	-	9793	-	23597	-
	県	863	64	-	188	-	592	-
交通事故	国	3536	750	22.7	1112	11.4	1038	4.4
	県	64	14	21.9	18	9.6	27	4.6
転倒・転落・墜落	国	10202	539	16.3	1674	17.1	7835	33.2
	県	214	12	18.8	31	16.5	167	28.2
不慮の溺死及び溺水	国	7184	497	15.1	2538	25.9	3920	16.6
	県	227	12	18.8	58	30.9	155	26.2
不慮の窒息	国	7989	543	16.4	1956	20.0	5290	22.4
	県	159	9	14.1	28	14.9	122	20.6
その他								

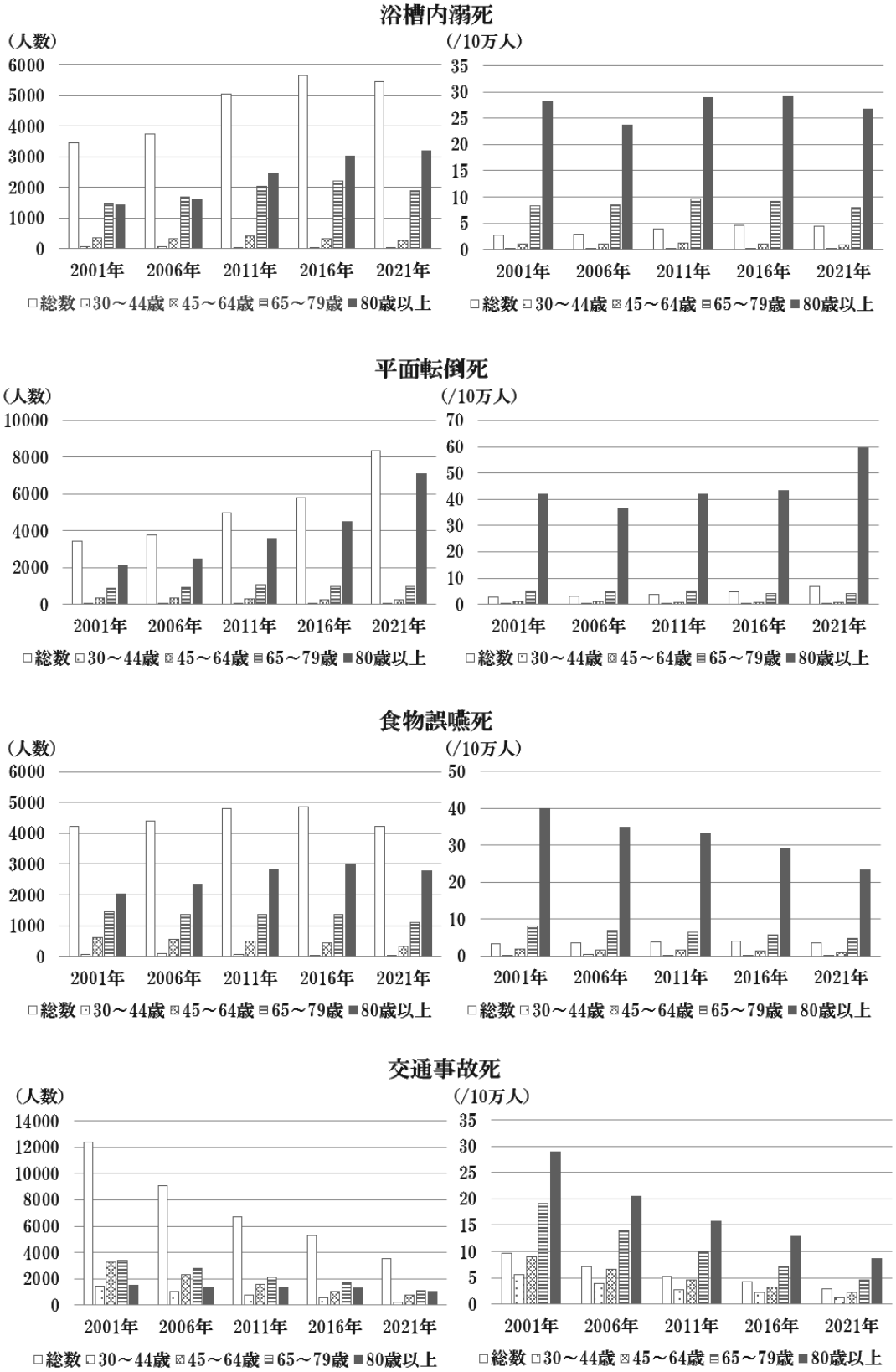

図 1．全国の不慮の事故死 4 大死因の総死者数と 30～44 歳、45～64 歳、65～79 歳と 80 歳以上の年齢階層別死亡数。2001 年～2021 年まで 5 年毎にその死亡数と 10 万人当たりの頻度として示す。